

(様式1) 実践事例

学校名	川俣町立富田小学校	校長名	黒澤 雄二		
住所	伊達郡川俣町鶴沢字林山18番地	児童生徒数	110名	学級数	7
TEL	024-565-2184	ホームページアドレス	なし		

少人数のよさを生かした個に応じた指導方法の工夫・改善
～思考の共有と吟味を促すアクティブラーニング的な視点を取り入れた学び合いの実践～

1 少人数教育の計画等

本校での少人数教育にあたっては、各教科等の学習においてアクティブラーニング的視点を取り入れた「学び合い」について実践研究を推進している。アクティブラーニング的視点とは、授業において、児童が仲間とともに能動的・協働的な学びが深まるように児童一人一人の思考の共有と吟味の充実を図ることである。

したがって、授業では、児童一人一人が自ら課題意識をもち、仲間とともに主体的に「学び合い」に取り組む学習活動を大切にしている。教師は、児童の「学び合い」を促進するために、学びがいのある課題提示を工夫し、一人一人に明確な問いをもたせること、仲間とともに課題を解決し合う場をペア・小集団・学級全体など様々な学習形態を活用して学びをコーディネートすることを通して、児童一人一人の個々の学力向上を目指している。

2 実践の概要（第5学年 8名）

(1) 単元名 小数のわり算を考えよう

(2) 本時のねらい

自分自身の【できる・わかる（「整数÷整数」、「小数÷整数」）】に着目した授業展開を通して、「小数÷小数」の計算の仕方について理解することができる。

(3) 本時における個に応じた指導方法の手立て



①手立て1

既習事項を想起させ、児童一人一人に問いをもたせ、自分が「できること・わかること」「できないこと・わからないこと」を明確にし、課題解決までの見通しをもって意欲的に取り組ませる。

②手立て2

「できない・わからない」児童を出発点にして話し合いの展開や互いの思考過程を共有できる学習形態を工夫し、児童自身が互いにかかわり合う必然性を高め、主体的に課題解決に取り組ませる。

(4) 授業の実際

手立てに応じた学習活動	授業における教師・児童の様子
手立て1 前時までの学習内容について、整数÷整数、小数÷整数と段階的に押さえていきながら、一人一人のつまづきを再確認した。 そして、本時は新たに小数÷小数の計算方法を考える学習課題を提示した。	○ 教師から提示された学習課題について、前時との違いを把握し、小数÷小数を解決していくために「できそうなこと」を、教師は一人一人に関わりながら見通しをもたせた。 
手立て2 児童一人一人が考えた解決方法について学級全体での「学び合い」活動に取り組んだ。 ここでは、一人一人の思考の吟味を図り、小数÷小数について、「できること・わかること」を学級全体で共有した。	○ 小テーブルに児童が考えた解決方法を持ち寄り、ノートを使って互いに確認し合いながら、小数÷小数の計算法について、児童が中心になって話し合い活動を進めた。 教師は、児童の考えを他の児童へつないだり、問い直しを行ったりしながら、全体での考えの共有化を意図的に図った。 

3 実践の成果と課題

○ 児童一人一人に問いをもたせるために、個の学びの実態を適切に把握し、個別に対応しながら課題解決までの道筋をとらえさせた関わりは効果的だった。

○ 少人数教育のよさを生かし、学級全体で課題を共有し、その解決に向けた「学び合い」は、児童一人一人の主体性を育むことができた。

● 一人一人に学習課題を明確にとらえさせようとしたため、時間を要してしまった。より端的で、学びがいのある「問い」が生まれる課題提示の研究が必要である。

● より多くの児童が自分の考えを「学び合い」の場面で発言できる教師のコーディネート力について研究を深める必要があった。